

平成21年度病害虫発生予察注意報第3号

平成21年10月16日

愛 知 県

作物名：イチゴ

病害虫名：うどんこ病

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 多い

3 注意報発令の根拠

(1) 9月下旬の巡回調査において28ほ場を調査したところ、県内各地の4ほ場で発生を確認し、発病ほ場率14.3%、発病株率1.6%(平年発病ほ場率3.4%、発病株率0.1%)といずれも過去10年間と比較して最も高かった。

(2) 9月下旬に初発生を確認した年は、その後、多発する傾向がある。

(3) 促成栽培におけるビニル被覆により、発病に好適な条件となる。

4 防除上注意すべき事項

(1) 果実の被害を防ぐために、葉での発病を防ぐ。

(2) 多発すると防除が困難なので、早期発見、早期防除に努める。

(3) 窒素肥料の過多や、葉が混み合うと多発しやすくなるので、適切な栽培管理を行う。

(4) 発生を確認したほ場では、治療効果のある薬剤を選び防除の徹底を図る(表)。

(5) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する(表)。

(6) 発病した葉や果実などは伝染源となるので、施設から持ち出し、適切に処分する。

(7) 薬剤はラベルの表示事項を守り使用する。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除グループ

電話：0561-62-0085(内線471)

表 イチゴうどんこ病に対する主な防除薬剤

系統記号	薬剤名	希釈倍数(倍)	収穫前日数・使用時期	使用回数	予防	治療	備考
A	ポリオキシシAL水溶剤	5000倍	収穫7日前まで	5回以内	○	○	露地栽培では収穫3日前まで
B	ベルコートフロアブル	2000～4000倍	収穫前日まで(生育期)	2回以内	○	○	
I	パンチョ顆粒水和剤	4000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	
C	ルビゲン水和剤	4000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
C	ラリー水和剤	4000～8000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
C	バイコラル水和剤	5000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
C	スコア顆粒水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
C	サンリット水和剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
C	トリフミン水和剤	3000～5000倍	収穫前日まで	5回以内	○	○	
C	サブロール乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	○	○	
D	アミスター20フロアブル	1500～2000倍	収穫前日まで	本圃:3回以内	○	○	
D	ストロビーフロアブル	3000～5000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
E	カリグリーン	800～1000倍	収穫前日まで	-		○	
E	ハーモメイト水溶剤	800～1000倍	収穫前日まで	-		○	
E+F	ジーファイン水和剤	750～1000倍	収穫前日まで	-		○	
H	バイオトラスト水和剤	1000～2000倍	育苗期～収穫前日まで	-	○		
H	タフパール	2000～4000倍	発病前～発病初期	-	○		
H	ボトキラー水和剤	1000倍	発病前～発病初期	-	○		
H	ボトピカ水和剤	2000～4000倍	発病前～発病初期まで	-	○		
H	バイオワーク水和剤	1000倍	発病前～発病初期まで	-	○		
G	イオウフロアブル/サルファーブル	500～1000倍	-	-	○		
G	硫黄粉剤50	3kg/10a	-	-	○		
G	硫黄粉剤80	3kg/10a	-	-	○		

A : 抗生物質 B : グアニジン系 C : DMI D : ストロビルリン系 E : 炭酸水素塩剤
 F : 無機銅 G : 無機硫黄 H : 微生物剤 I : その他

イチゴうどんこ病について

1 病原菌 *Sphaerotheca aphans* (Wallroth) Braun var. *aphans* (糸状菌 子のう菌類)

2 被害の様子

- ・ 葉、果実、ようへい葉柄、かこう果梗などに発生する。
- ・ はじめは下葉に赤褐色の斑点が現れ、植物体表面にクモの巣状のかびを生じ、ついで白粉を散布したようにかびが密生する。
- ・ つぼみに発生すると、花卉が紫紅色になる。
- ・ 果実に発生すると、果面が傷みやすくなり商品価値が失われる。未熟な果実に発生すると、肥大が悪くなり、薬剤で防除しても果面が汚れる。成熟しても果色が悪くなり、味が低下する。
- ・ 激発すると、小葉が上向きに巻いてスプーン状になる。遠くから見ると畑全体が白っぽくなる。



発病した葉（裏 初期症状） 発病した葉（表 激発、巻いている） 発病した果実

3 発生しやすい条件

- (1) うどんこ病は、空気湿度80～100%で多発するため、ビニール等で被覆すると空気湿度が高くなり、発生が多くなる。
- (2) 果実の肥大、収穫時期など草勢が衰えたときに多発する傾向がある。

< 語句説明 >

糸状菌・・・糸状の菌糸をもつ真菌類。通称、かび。

ようへい葉柄・・・葉の一部で葉身をささえ、クラウン（短縮茎）と連結している柄になった部分。

かこう果梗・・・果実をささえ、クラウンと連結している部分。果柄ともいう。

薬剤感受性・・・病原体に対する薬剤の効き具合。これが低下する原因としては殺菌剤に対し耐性を持った病原菌が出現するため。